

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
ALDH2, ADH1B, and ADH1C genotypes in Asians: a literature review. アジア人の遺伝型 ALDH2、ADH1B、ADH1C について:概説	
執筆者	
Eng MY, Luczak SE, Wall TL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Res Health. 2007;30(1):22-7. Review.	
キーワード	
アルコール依存、ALDH2、ADH1B、ADH1C、危険因子、遺伝要因、アジア	
要 旨	
<p>アルデヒド脱水素酵素ALDH 2、アルコール脱水素酵ADH 1B と ADH 1Cの3つのアルコール代謝酵素をエンコードしている遺伝子はアルコール依存症の割合と関連しているとされている。これらの遺伝子型の分布はアジアの民族によって様々である。ALDH 2*2対立遺伝子が最も多く分布しているのは、中国系アメリカ人、中国漢民族、台湾人、日本人、韓国人である。割合が低いのはタイ人、フィリピン人、インド人、中国のいくつかの民族、台湾先住民である。ADH1 B*2 はインド人を除く多くのアジア人に高率に分布している。ADH 1C*1は中国と韓国でしか調べていないが、アジアで高率に分布している。</p>	